

登録コード:MH1A1400 開講年度:2026		授業科目区分	助産学コース 必修
科目名	助産ケアと生命倫理【22M～24M】 Midwifery care and bioethics		
担当教員	中込 さと子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年 前期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	1単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH22カリ・保健		
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。	生命の始まりと家族関係に関わる生殖補助医療、言葉で意思を表明できない胎児・新生児の出生前検査、二律背反で倫理的ジレンマを生じる二者の生命が関わる妊娠期の判断、カップルや家族内の力関係の不平等といった倫理的課題がある医療の中で責務を果たす助産師が備えるべき教養、探究的、創造的思考を身に付け、専門職としての行動を選択し、実行することができる。	
	MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	生命の始まりと家族関係に関わる生殖補助医療、言葉で意思を表明できない胎児・新生児の出生前検査等の場面にある二律背反の課題、カップルや家族内の力関係の不平等といった倫理的課題がある医療の中で責務を果たすうえで備えるべき教養や理論を習得し、事例分析することができる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	生殖補助医療技術、出生前検査技術、胎児・新生児の治療等、親と子の間で生じる二律背反での倫理的ジレンマ、カップルや家族内の力関係の不平等の中での意思決定支援をはじめとした産科医療で責務を果たす助産師が備えるべき教養、探究的、創造的思考の基本を身に付け、専門職としての行動を選択し、実行することができる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、助産実践の家庭を深めるために、SOGIに関わる課題、妊娠・出産時、新生児期に関わる生命倫理問題について学びます。医療者と医療を求める人との価値対立した時、助産師はどのような態度であるべきか。助産師の応召の義務と助産師の価値や心身の健康の保護とは対立するのか。授業の中で考えていきます。 本授業は、助産学コースの科目、ヒューマンセクシュアリティ、助産学概論、助産診断技術学 ～ 、助産管理と共に、助産学実習の基盤となる科目です。 本授業は、助産師資格の必須科目として開講します。担当者は助産師としての実務経験を生かして講義を行います。		
授業計画	第1回(4月13日2限)生命倫理、看護倫理、助産師の倫理綱領 第2回(4月13日3限)倫理的配慮とは 事例をもとにディスカッション 第3回(4月20日2限)重症障害新生児の治療選択 第4回(4月20日3限)倫理的配慮とは 事例をもとにディスカッション 第5回(4月27日2限)出生前検査・着床前検査に関わる倫理的課題 第6回(4月27日3限)倫理的配慮とは 事例をもとにディスカッション 第7回(5月11日2限)産科暴力・性暴力経験者・身体に触れる職業人として倫理的配慮 第8回(5月11日3限)倫理的配慮とは 事例を基にディスカッション 授業アンケート		
授業の進め方	講義の中で学生同士の討議時間を持ちます。 倫理的葛藤や倫理的ジレンマがある事象について考えること、それを十分表現できなくても語ること・記述することを練習します。		
テキスト、教材、参考書	必携図書 助産学講座1 助産学概論, 医学書院 第4章を読みましょう。 母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護, メディカ出版, 第5章。 参考図書 Jonsen, et al.: Clinical Ethics 8th edition, 2015および同5版翻訳版(赤林ら、2006) その他、授業の中で紹介します。		
成績評価の方法	レポートおよび筆記試験で評価します。レポート40%、ディスカッション60%です。 ・レポートについては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」、4項目までできていれば「やや上にある(良)」、3項目までできていれば「水準にある(可)」。 ・筆記試験に関しては、授業で示した基本的な概念に関する問題が解ければ「水準にある(可)」、応用問題が解ければ「やや上にある(良)」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある(優)」、臨床に即した難しい応用問題が解ければ「卓越している(秀)」。		

成績評価の方法	・筆記試験50点、レポート50点、合計100点満点で評価し、60点以上を合格とします。90-100点：秀（卓越している）、80 - 89点：優（かなり上にある）、70 - 79点：良（やや上にある）、60 - 69点：可（水準にある）と評価します。
成績評価の基準	・レポートについては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明でき、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘でき、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握でき、(v) その上で自分の見解を提示でき、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」、4項目までできていれば「やや上にある（良）」、3項目までできていれば「水準にある（可）」。 ・筆記試験に関しては、授業で示した基本的な概念に関する問題が解ければ「水準にある（可）」、応用問題が解ければ「やや上にある（良）」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」、臨床に即した難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」。 ・筆記試験50点、レポート50点、合計100点満点で評価し、60点以上を合格とします。90 - 100点：秀（卓越している）、80 - 89点：優（かなり上にある）、70 - 79点：良（やや上にある）、60 - 69点：可（水準にある）と評価します。
事前事後学習の内容	第1、2回の予習： 必携図書 助産学講座1助産学概論 第4章を読みましょう。 参考図書 Jonsen, et al. Clinical Ethics 8th edition, 2015および同5版翻訳版（赤林ら、2006）に掲載されている「Jonsenらの4分割法（The Four Topics Chart）」を調べておきましょう。 参考文献は講義の中で提示します。トピックスについて討議します。それに関する基礎的知識を予習しておきましょう。 【事後学習について】 毎回の講義で学んだ内容について試験をします。学習したことを整理しておきましょう。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）+ 自己学習時間30時間（4時間×7.5回）= 45時間 自己学習時間を考慮して事前及び事後の学習に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	・質問は積極的にして下さい。メールsnakagomi@shinshu-u.ac.jpでも受け付けます（必ず大学アドレスから氏名と学籍番号を明記の上で送信のこと）。 ・グループワーク等、学生同士のディスカッションの際には積極的に発言してください。 ・オフィスアワーは、木曜日以外は対応可能です。事前にメールで連絡ください。その段階で日程調整をしましょう。私の部屋は保健学科中校舎3階です。